

「弟子たちへの教え(1)」

ルカ 12 : 1~12

1. はじめに

(1) 文脈の確認

- ① 前回は、パリサイ人の家の食卓での出来事を見た。
- ② イエスは、パリサイ人たちの儀式主義を糾弾した。
- ③ 次にイエスは、律法学者たちの律法主義を糾弾した。
- ④ きょうの箇所は、その文脈の中で読むべきものである。

(2) A. T. ロバートソンの調和表

§ 108~110 は、ひとかたまりと考えるべきである。

- ① § 108 ルカ 12 : 1~59
- ② § 109 ルカ 13 : 1~9
- ③ § 110 ルカ 13 : 10~21

(3) 内容

- ① ルカ 12 : 1~53 弟子たちへの教え 5つのテーマ
- ② ルカ 12 : 54~13 : 21 群衆への教え 4つのテーマ

(4) アウトライン (12 : 1~53)

- ① 恐れずに証しせよ (12 : 1~12)
- ② 貪欲に注意せよ (12 : 13~21)
- ③ 心配するな (12 : 22~34)
- ④ その日に備えよ (12 : 35~48)
- ⑤ 誤解されることを恐れるな (12 : 49~53)
(今回は①だけを取り上げる)

3. 結論 :

- (1) 赦されない罪とは
- (2) 聖霊の助けとは

弟子たちへの教えを通して、イエスから警告と励ましを受ける。

I. 恐れずに証しせよ (12 : 1~12)

1. 1節

Luk 12:1 そうこうしている間に、おびただしい数の群衆が集まって来て、互いに足を踏み合うほどになった。イエスはまず弟子たちに対して、話しだされた。「パリサイ人のパン種に気をつけなさい。それは彼らの偽善のことです。

- (1) パリサイ人の食卓での教えは、人々を引きつけ、それが大群衆となった。
 - ①パリサイ人に対するイエスの容赦なき糾弾が、人々の関心を呼んだ。
 - ②日頃パリサイ人から苦しめられていた人たちは、溜飲を下げたことであろう。
 - ③イエスは弟子たちに教えたが、その周りでは、群衆が聞いていた。
 - ④ローマは、大群衆の集まりを恐れた。通常は集会許可が必要である。
 - ⑤この段階では、ローマはまだイエスに注目していない。

- (2) 「パリサイ人のパン種に気をつけなさい」
 - ①「パン種」という言葉が比喩的に用いられると、それは「偽りの教え」を指す。
 - ②「パリサイ人のパン種」とは、パリサイ人の偽善のことである。
 - ③内面を隠すために仮面をかぶるのが、偽善である。
 - ④前回取り扱ったテーマは、パリサイ人の偽善であった。

2. 2～3節

Luk 12:2 おおいにかぶされているもので、現されないものはなく、隠されているもので、知られずに済むものはありません。

Luk 12:3 ですから、あなたがたが暗やみで言ったことが、明るみで聞かれ、家の中でささやいたことが、屋上で言い広められます。

- (1) 偽善的に生きるのは、愚かなことである。
 - ①やがてすべてが明るみに出されるから。

- (2) 次に、弟子たちの宣教の広がりやが預言される。
 - ①今は、弟子たちのメッセージに耳を傾ける人は少数であり、限定的である。
 - ②しかし、十字架、復活、聖霊降臨の時代が来る。
 - ③その時には、弟子たちの働きは世界的なものとなる。
 - ④それは、家の中でささやいていたことを、屋上で言い広めるようなものである。
 - ⑤パレスチナの家屋では、近隣に情報を伝達するためには屋上が最適である。
 - ⑥自らの伝道の広がりやに期待する人は、幸いである。

3. 4節

Luk 12:4 **そこで、わたしの友であるあなたがたに言います。からだを殺しても、あとはそれ以上何もできない人間たちを恐れてはいけません。**

- (1) イエスは弟子たちを「わたしの友」と呼ばれた。
 - ①ギリシア語で友は、「フィロス」である。
 - ②この友情関係は、いかなる試練の中でも、恥ずべきものではない。
- (2) 世界宣教が始まると、迫害が起こり、命の危険を感じる状況が訪れる。
 - ①しかし、人間を恐れてはならない。
 - ②人間ができることには限界がある。肉体的な命を奪うことまでである。

4. 5節

Luk 12:5 **恐れなければならない方を、あなたがたに教えてあげましょう。殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方を恐れなさい。そうです。あなたがたに言います。この方を恐れなさい。**

- (1) 恐れなければならない方がいる。
 - ①「殺したあとで、ゲヘナに投げ込む権威を持っておられる方」
 - ②「ゲヘナの意味」
 - * 「ゲイ・ヒノム (ヒノムの谷)」 = 「ゲヘナ」
 - * モレクの神に子どもを捧げていた場所
 - * ヨシヤ王がそこを破壊した (2列23:10)。
 - * それ以降、エルサレムの町から出るゴミを燃やす場となった。
 - * 常時、煙が立ち上っていた。
 - ③日本語訳
 - * 「ゲヘナ」という訳：(新改訳)、(文語訳)
 - * 「地獄」という訳：(新共同訳)、(口語訳)、(リビングバイブル)
 - * 「火と硫黄との燃える池」(黙21:8)と同じである。
- (2) ユダヤ人たちは、この表現が裁き主である神を指していることを理解した。
 - ①裁き主である神を恐れることは、知恵である。
- (3) 信者を迫害する者は、肉体の死よりも恐ろしい永遠の死を経験するようになる。

5. 6～7節

Luk 12:6 **五羽の雀は二アサリオンで売っているでしょう。そんな雀の一羽でも、神の御前には忘れられてはいません。**

Luk 12:7 **それどころか、あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀よりもすぐれた者です。**

- (1) 神の守りの教えを補強するためのカル・バホメル(大から小へ)の議論
 - ①雀は、最も安い食用の鳥である。
 - ②2羽で1アサリオン(マタ10:29。最小のローマ銅貨で16分の1デナリ)
 - ③ここでは、5羽で2アサリオン。5羽目はただである。
 - ④そんな雀の一羽でも、神は覚えておられる。
 - ⑤ましてや、神があなたがた人間を忘れることはない。

- (2) 「あなたがたの頭の毛さえも、みな数えられています」
 - ①旧約聖書の表現法で、神の許しがなければ何も起こらないという意味である。
 - ②1サム14:45、2サム14:11、1列1:52

6. 8~9節

Luk 12:8 **そこで、あなたがたに言います。だれでも、わたしを人の前で認める者は、人の子もまた、その人を神の御使いたちの前で認めます。**

Luk 12:9 **しかし、わたしを人の前で知らないと言う者は、神の御使いたちの前で知らないと言われます。**

- (1) ユダヤ人にはなじみのある「天の法廷」での裁きの情景
 - ①天使たちがそこに出席しているのも、ユダヤ人の理解に合致している。
 - ②イエスは、弁護士であり検察官でもある。
 - ③イエスは、この裁判に負けることはない。

- (2) 2種類の人たち
 - ①イエスを人の前で認める者
 - *イエスを救い主と信じる者。真の信者。
 - *イエスは、真の信者を認めてくださる。
 - ②イエスを人の前で知らないという者
 - *イエスを信じない者
 - *第一義的にはパリサイ人を指すが、それ以外の者にも当てはまる。

7. 10節

Luk 12:10 **たとい、人の子をそしることばを使う者があっても、赦されます。しかし、聖霊をけがす者は赦されません。**

- (1) 「赦される」「赦されない」という表現

- ①ユダヤ人たちは、「神の御名」を避けるために、受動態を使うことが多かった。
- ②実際は、「神は赦される」、「神は赦されない」という意味である。
- ③「赦されない罪」については、結論で詳細を解説する。

8. 11～12節

Luk 12:11 **また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。**

Luk 12:12 **言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです。」**

(1) ユダヤの権威による裁きと、ローマの権威による裁きがあった。

- ①前者の場合は、会堂で裁きが行われた。
- ②鞭打たれることもあった。
- ③後者の場合は、より厳しい裁きが実行された。

(2) 弟子たちには、聖霊の守りが保証された。

- ①事前に弁明内容を考えておく必要はない。
- ②聖霊が、教えてくださる。

結論：

1. 赦されない罪について

「たとい、人の子をそしることばを使う者があっても、赦されます。しかし、聖霊をけがす者は赦されません」(10節)

(1) 「聖霊をけがす」とは、イエスがメシアであることを否定する者である。

- ①イエスは、かずかずの「しるし」を行い、ご自身のメシア性を証明された。
- ②そのひとつに、口をきけなくする悪霊の追い出しがあった。
- ③ユダヤ人たちは、イエスは悪霊のかしらベルゼブルによって悪霊を追い出していると言った。
- ④これは、聖霊を悪霊だと言っているのと同じことである。
- ⑤これは、イエス時代のユダヤ人たちだけが犯すことのできる罪である。
- ⑥イエスは、その罪に加担しないように弟子たちに勧めた。

(2) 信仰が後退した者の罪は、赦される。

- ①その人が神に立ち返ったなら、赦される。
- ②罪責感があることは、「赦されない罪」を犯していないことを証明している。

(例話) 南蛮誓詞と日本誓詞

(3) イエスを拒否したり、罵倒したりする未信者の罪も、赦される。

①キリストを救い主として受け入れることが、条件である。

2. 聖霊の助けについて

「また、人々があなたがたを、会堂や役人や権力者などのところに連れて行ったとき、何をどう弁明しようか、何を言おうかと心配するには及びません。言うべきことは、そのときに聖霊が教えてくださるからです」(11～12節)

(1) これは、聖書研究に対して怠惰であってもいいという教えではない。

①みことばの学び

②祈りの生活、すべて重要である。

(2) これは、第一義的には弟子たちに語られたものである。

①世界に対して福音のメッセンジャーになると、迫害が襲ってくる。

②サンヘドリンからの迫害、ローマからの迫害

(3) 第二義的には、真の信者一般にも適用可能である。

①困難に遭遇した際に、発すべき言葉が与えられる。

②証しの際に、語るべき言葉が与えられる。

③イエスとの友情関係が、ベースにある。

(例話) ハーベスト・タイムの番組収録で